

| | | | |
|-----|------------------|-------|-------|
| 科目名 | 社会学 Sociology | 科目コード | 40420 |
|-----|------------------|-------|-------|

| | |
|----------|------------------------|
| 学科名・学年 | 全学科・4年（プログラム1年） |
| 担当教員 | 鈴木 敏紀（上越教育大学） |
| 区分・単位数 | 履修単位科目・選択・1単位 |
| 開講時期・時間数 | 後期，30時間【内訳：講義30】 |
| 教科書 | 今村仁司，近代の労働観，岩波書店，1998年 |
| 補助教材 | プリント |
| 参考書 | 授業中に指示 |

【A．科目の概要と関連性】

近代の労働経験を考察する。そのためにもアルカイックな（古代的な）社会の労働観を概観し、そして両者を対照することで近代の労働観・労働経験を際立つ形で理解する。さらに現代の労働観・労働経験の諸問題を摘出し、それが未来社会の労働生活または社会生活とどのような形で連動していくのかを考察する。社会システムと福祉国家体制について理解する。

関連する科目：経済学、哲学、歴史学（以上次年度履修）

【B．到達目標と学習・教育目標との対応】

この科目は長岡高専の学習・教育目標の(a1)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育目標との関連を以下の表に示す。

| 到達目標 | 評価の重み | 学習・教育目標との関連 |
|--------------------------|-------|-------------|
| 時代及び国・地域によって労働観の違いを理解する。 | 30% | (a1) |
| 近代の労働観・労働経験の生成過程を理解する。 | 30% | (a1) |
| 現代の労働観・労働経験の問題点を理解する。 | 40% | (a1) |

【C．履修上の注意】

新聞記事の経済欄、社会欄に目を通しておくこと。一部授業を集中授業期間に行うことがあるので注意してほしい。

【D．評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

定期試験（100%）【内訳：後期末100】

【E．授業計画・内容】

後期

| 回 | 内容 | 備考 |
|----|--|----------|
| 1 | 社会学の基礎概念 | |
| 2 | 第1章 アルカイクな労働経験:(1)古代ギリシャの労働観 | |
| 3 | (2)アルカイクな社会の労働観 | |
| 4 | 第2章 初期近代の宗教倫理と労働:(1)貧民の監禁と教育、(2)「貧しい人々」と「人間の屑」 | |
| 5 | (3)禁欲の強制 | |
| 6 | 第3章 現代の労働経験:(1)労働者の証言 | |
| 7 | (2)ドマンの解釈と「労働の喜び」論 | |
| 8 | (3)機械化への期待、(4)労働の細分化と喜びの消滅 | |
| 9 | 第4章 労働の対他欲望:(1)対他欲望 | |
| 10 | (2)承認欲望のメカニズム、(3)労働の記号化 | |
| 11 | 第5章 労働文明の転換:(1)余暇の無為から多忙な勤勉へ | |
| 12 | (2)勤勉労働の懐疑 (3)承認と正義 | |
| 13 | 福祉国家体制について | |
| 14 | 社会システムについて | |
| - | 学年末試験 | 試験時間:80分 |
| 15 | 試験解説と発展授業 | |